

# 栗橋地区文化財お散歩マップ解説集

---

## 日光道中栗橋宿を歩く

# 日光道中

- ・近世の五街道（徳川幕府により整備された交通路）のひとつ。江戸日本橋から日光東照宮に至る街道
- ・道中には千住（現：東京都足立区・荒川区）から鉢石（現：栃木県日光市）までの21の宿場が置かれていた
- ・五街道は東海道・中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中



# 日光社参

将軍家が日光東照宮を参拝すること。大御所と将軍継嗣を含めて19回

回数	年	社参者
1	<sup>げんな</sup> 元和元年(1615)	2代将軍 <sup>ひでただ</sup> 秀忠
2	元和5年(1619)	2代将軍 秀忠
3	元和8年(1622)	2代将軍 秀忠
4	元和9年(1623)	<sup>だいなごん</sup> 大納言 <sup>いえみつ</sup> 家光
5	<sup>かんえい</sup> 寛永2年(1625)	3代将軍 家光
6	寛永5年(1628)	大御所 秀忠
7	寛永5年(1628)	3代将軍 家光
8	寛永6年(1629)	3代将軍 家光
9	寛永9年(1632)	3代将軍 家光
10	寛永11年(1634)	3代将軍 家光

回数	年	社参者
11	寛永13年(1636)	3代将軍 家光
12	寛永17年(1640)	3代将軍 家光
13	寛永19年(1642)	3代将軍 家光
14	<sup>けいあん</sup> 慶安元年(1648)	3代将軍 家光
15	慶安2年(1649)	大納言 <sup>いえつな</sup> 家綱
16	<sup>かんぶん</sup> 寛文3年(1663)	4代将軍 家綱
17	<sup>きょうほう</sup> 享保13年(1728)	8代将軍 <sup>よしむね</sup> 吉宗
18	<sup>あんえい</sup> 安永5年(1776)	10代将軍 <sup>いえはる</sup> 家治
19	<sup>てんぽう</sup> 天保14年(1843)	12代将軍 <sup>いえよし</sup> 家慶

# 栗橋地区について

---

- ・江戸時代初期まで栗橋地区は下総国しもうさのくに（現在：千葉県北部、茨城県南部）であったが、利根川の付替えにより、寛永年間かんえいねんかんから正保年間しょうほうねんかん（1624～1648）にかけて栗橋町域が下総国から武蔵国むさしのくにに編入された
- ・江戸時代には栗橋地区は三方を利根川、島川、権現堂川ごんげんどうがわに囲まれて、島中川辺領しまじゅうかわべりょうと呼ばれていた

# 栗橋宿について

・日光道中の7番目の宿場<sup>しゆくば</sup>。栗橋関所と渡船場を備えた宿場で、江戸北方における交通の要衝のひとつ

千住宿→草加宿→越谷宿→粕壁宿<sup>かすかべ</sup>→杉戸宿→幸手宿→栗橋宿

・慶長年間(1596~1615)に、下総国栗橋村の池田鴨之介<sup>しもうさのくに くり はし むら いけ だ かも の すけ</sup>と並木五郎平<sup>なみ き ごろ べい</sup>が代官・伊奈忠次<sup>だいかん い な ただ つぐ</sup>の指揮により上河辺新田<sup>かみ かわ べ しん でん</sup>として開墾した。これにより下総国栗橋村を「元栗橋」<sup>もと くり はし</sup>、上河辺新田を「新栗橋町」<sup>しん くり はし まち</sup>と呼ぶようになった

しょうほう ねんちゅうかい てい ず

# 「正保年中改定図」 ※正保年間（1644～1648）



『新編武蔵風土記稿』  
国立公文書館蔵

にっ こう どう ちゅう ぶん けん のべ え ず

# 日光道中分間延絵図

- ・栗橋宿などの宿場の町並みが見られる絵図

- ・『ご かい どう そのほか ぶん けん み とり のべ え ず五海道其外分間見取延絵図』(『かん せい五街道分間延絵図』とも略称で言われる)は江戸幕府の道中奉行所が、寛政12年(1800)からぶん か文化3年(1806)にかけて精密な測量や調査をして作成したもの

- ・東京国立博物館に収蔵され、歴史資料として国の重要文化財に指定されている。本絵図はそのうちの日光道中の巻

# 日光道中宿村大概帳

- ・『五街道分間延絵図』の作成に関わって作られたものといわれている。  
宿場の人口や主要施設の数などの概要が書かれている
- ・幕府の命で改めて校本が天保<sup>てん ぼう</sup>14年(1843)頃に作成された
- ・現在確認できるものは、明治15年(1882)に刊行された『駅遞志稿<sup>えき てい し こう</sup>』  
の編さん資料として写されたものとされる

『日光道中宿村大概帳』（郵政博物館蔵）

天保14年(1843)頃

人口:1,741人

家数:404軒

ほん じん

本陣:1軒

わきほん じん

脇本陣:1軒

はたご や

旅籠屋:25軒

とん や ば

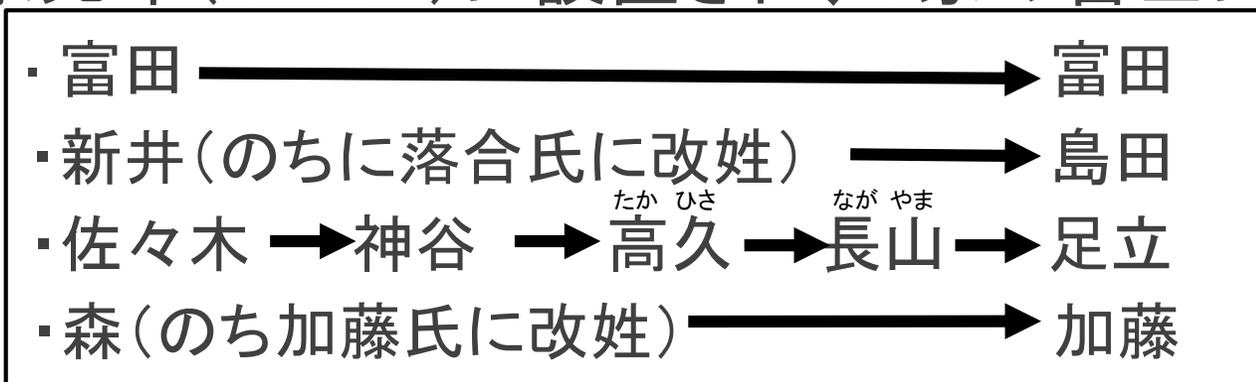
問屋場:1か所

# 栗橋関所とその付近の主要施設

---

# 1 栗橋関所

- ・正式名称「ぼう せん わたしなか だ せき しょ房川渡中田関所」・・・渡河点に設置された関所は、対岸の地名を冠せられた
- ・東海道の箱根、中山道の碓氷うすいと並ぶ重要な関所
- ・寛永元年(1624)に設置され、4家の番士ばんしにより監視されていた

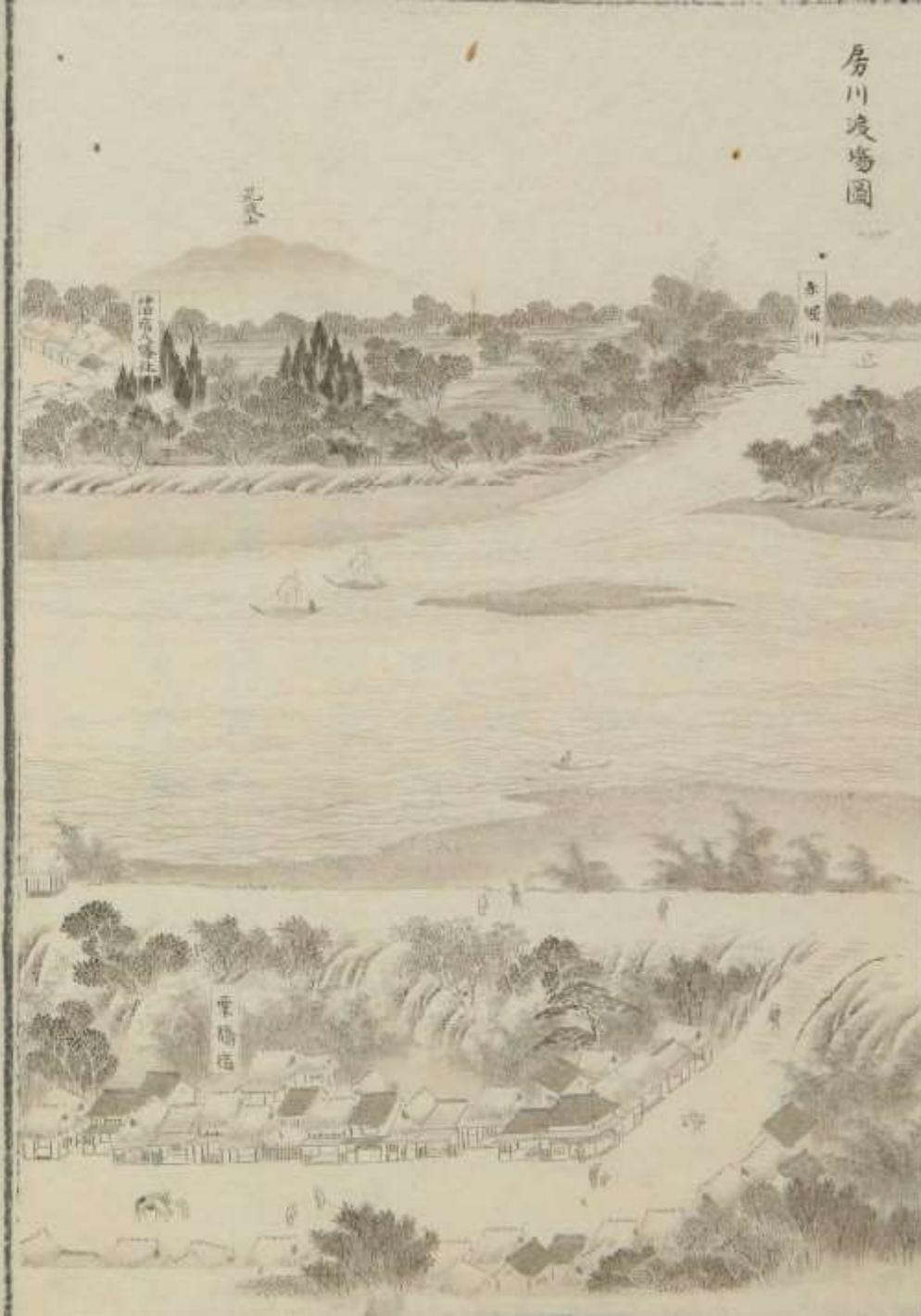
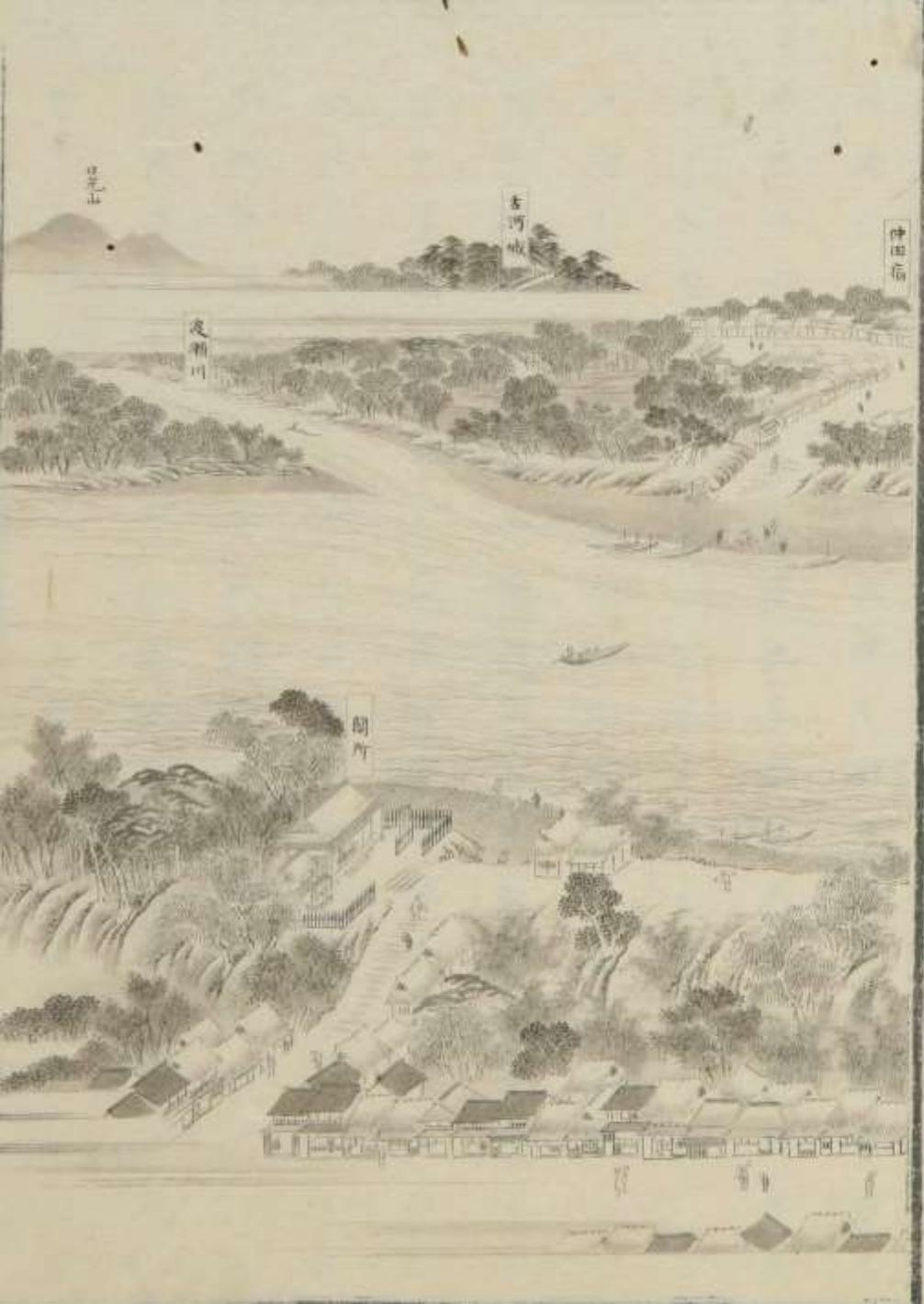


- ・武器や女性などの通行を厳しく監視。「入り鉄砲い でっぽうに出女でおんな」

栗橋関所復元模型：郷土資料館蔵



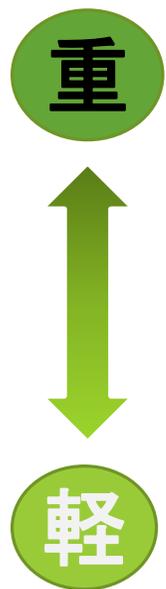




『新編武蔵風土記稿』  
国立公文書館蔵  
「房川渡場図」

# 関所破り

・正式な手続きを受けず、関所を免れる関所破りは、親殺しと同等の重罪人として、磔刑たっけいに処された



刑罰	犯罪(主なもののみ)
鋸挽(のこぎりびき)	主殺し
磔(はりつけ)	親殺し、関所破り
獄門(ごくもん)	追剥、密通(男)
火罪(かざい)	放火
死罪(しざい)	十両以上の盗み、密通(男女)
下手人(げしゅにん)	喧嘩口論による殺人

『江戸の刑罰』石井良助著  
をもとに作成

## 2 問屋場・高札場

・**問屋場**：伝馬制度のもと宿場に置かれた。人馬の継立の手配、助郷関係の業務を行う宿場の中心的な場所。幕府関係の公的な利用においては人馬を無料で使用でき、その代償として地子免除された

※地子免除：土地課税、年貢の免除

・**高札場**：幕府からの禁制や通達事項等が書かれた札を掲げた場所

すけ ごう かい しょ

### 3 助郷会所

---

- ・助郷の人馬を手配するために設けられた施設

助郷：江戸時代、宿駅常備しゆく えきの人馬が不足する場合に幕府や諸藩が補填のために人馬を提供させた近隣の村々。またその課役や制度を指す

## 4 本陣

---

- ・大名、公家、幕府役人など、身分の高い人が休泊するための公的な施設
- ・本陣の格式に次ぐ脇本陣わきほんじんは、主に武家などが休泊したが、空いているときにはそれ以外の人も泊まることができた

# その他

---

- 旅籠屋・・・庶民の旅館

- └ <sup>ひら</sup>平旅籠屋：一般旅館

- └ <sup>めし もり</sup>飯盛旅籠屋：<sup>めし もり おんな</sup>飯盛女を置いた旅館

- <sup>き ちん やど</sup>木賃宿・・・旅人が自炊で泊まる宿

- <sup>ちゃ や</sup>茶屋・・・旅人向けの休憩場。お茶、一膳飯、酒等を販売

# 栗橋を歩く

---

しずか ご ぜん  
① 静御前の墓 (市指定文化財)



きょう わ かんじょう ぶ ぎょう  
・享和3年(1803)に勘定奉行、  
かん とう ぐん だい なか がわ ただ てる  
関東郡代の中川忠英により建て  
られた

みなもとのよしつね  
・源義経の内妻であった静御前  
の墓と伝えられる

・静御前が源義経を追って奥州  
に向かう途中で、義経の死を  
知って、悲しみのあまり当地で亡  
くなり、埋葬されたと伝えられる

ひと こと じん じゃ

## ②一言神社



- ・利根川が決壊した際に、村人が通りかかった旅の親子を人柱にしようとしたところ、母親が「一言、言い残したい」と願ったが聞き入れられなかったことから、親子の霊を慰めるために<sup>ほこら</sup>祠が建てられたという言い伝えがある
- ・静御前の侍女<sup>ことじ</sup>琴柱がここに<sup>そうあん</sup>草庵を建てて静御前の菩提を吊ったという言い伝えもある

ほう じ と いけ

## ③宝治戸池



- ・<sup>かんぼう</sup>寛保2年(1742)、利根川の洪水によってできた池と伝えられている
- ・<sup>おおいけ</sup>大池ともいう
- ・伝承として、池の底に金の延べ棒が沈んでいるという話があり、<sup>せんすいふ</sup>潜水夫が池に潜って探したが、結局見つからなかったと伝えられている

か とり じん じゃ きょう ぞう いん  
④香取神社・経蔵院

香取神社



経蔵院(真言宗)

じょうがん

・貞観年間(859～877)開山と伝えられる



かん しつ じ ぞう ぼ さつ りゆう ぞう

## ④-1 乾漆地蔵菩薩立像 (市指定文化財)



- ・経蔵院の本尊。頭部と両手首のみ木製、ほかは乾漆製の仏像で江戸時代の作
- ・乾漆は奈良時代によくみられる彫刻の作り方のひとつ。土または木の原型に漆を塗り、その上に麻布を貼り、それを交互に繰り返して作る
- ・この像には和紙が使用されていて珍しい

や さか じん じゃ

## ⑤八坂神社



・栗橋宿の鎮守。江戸時代には「牛頭ごず  
天王社てんのうしゃ」といわれていた

・慶長年間(1596～1615)の利根川の洪水で、元栗橋から鯉と亀に守られて神輿が流れ着いたことから勧請されたといわれる。それを象徴する狛犬ならぬ「狛鯉」が見られる

・地元では「天王様」と呼ばれ、夏祭りで神輿が担がれて街を練り歩く



八坂神社の狛鯉と亀

天王様の夏祭りと  
八坂神社の神輿(市指定文化財)



ぼう せん わたし あと

## ⑥房川渡跡



- ・房川渡は、栗橋宿と中田宿間を流れる利根川を渡るための渡船場
  - ・通常舟で渡ったが、例外として日光社参にあたっては、<sup>ふな ばし</sup>船橋が仮設された
- ※船橋：船を連結し、<sup>むしろ</sup>板や筵を敷くなどして造られた臨時の橋

くり はし せき あと  
⑦ 栗橋関跡

(県指定旧跡)



- ・栗橋関所は、明治2年(1869)2月に廃止された
- ・大正13年(1924)に、地元の有志によって建てられた「栗橋関所址」の碑
- ・碑の題字は徳川宗家16代目当主・  
いえ さと き ごう  
家達の揮毫

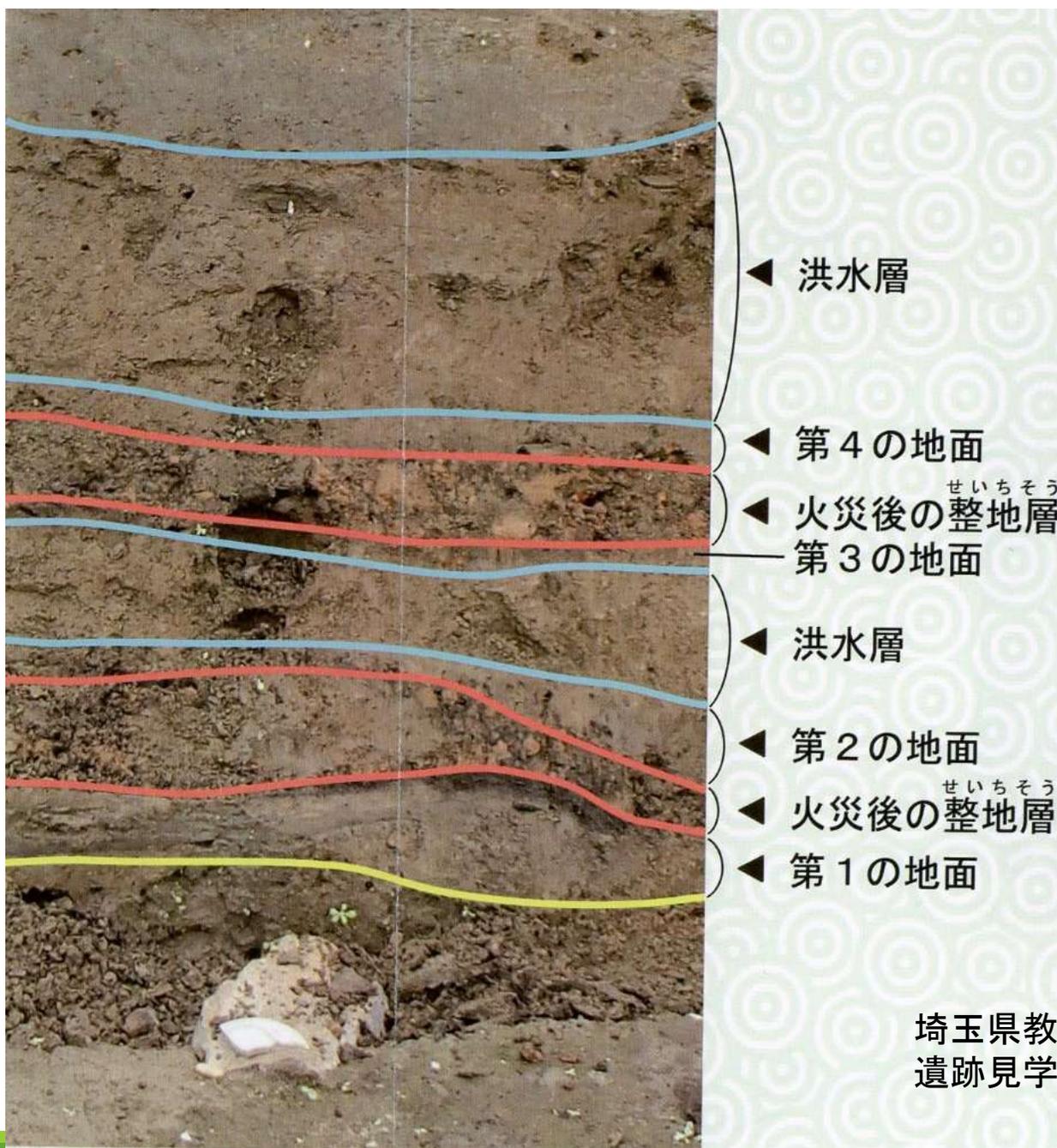
にしほんじんあと

## ⑧西本陣跡

- ・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって、平成24年度から栗橋宿の発掘調査が進められ、平成27年度から西本陣跡が調査され、平成28年度には3回目の調査が行われた
- ・脇本陣跡の発見や昔の宿場の様子が明らかになってきている

埼玉県教育委員会・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団主催  
遺跡見学会パンフレット





- ・土層から水害や火災などの災害が複数回起こり、その度に復興してきたことがわかる
- ・『足立家文書』や『島田家文書』にも洪水が起こり、関所が再建された記録が見られる

埼玉県教育委員会・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団主催  
遺跡見学会パンフレット



人工池の遺構



建物の基礎跡



文字の書かれた木片

埼玉県教育委員会・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団主催  
遺跡見学会パンフレット

けん しょう じ

## ⑨ 顯正寺



・宗派は浄土真宗

じょうえい

・貞永元年(1232)に常陸国茨城郡に光念寺として建てられたが焼失し、後に下総国古河領に再建され顯正寺と改称。その後、慶長年間(1596～1615)の栗橋宿開発を機に現地に移ったとされる

ひたちのくに いばらき ぐん

・市指定有形文化財の「池田鴨之介の墓」、  
「木造阿弥陀如来立像」がある

いけ だ かも の すけ

もく ぞう あ み だ によ らい りゅう ぞう

## ⑨-1 いけ だ かも の すけ 池田鴨之介の墓 (市指定文化財)



- ・栗橋宿開拓者のひとりで、元和年間から寛永初頭にかけて本陣役を務めた。顕正寺の開基
- ・せつ つのくに いけ だじょう 摂津国池田城(現大阪府池田市)にいたことから池田を名乗るようになり、東国へ移ったといわれる
- ・こう みょう いんしゃく じょうくん こ じ 戒名「光明院釈常薫居士」で、常薫寺の名称の由来とされる

ほう ろく じ ぞう

# ⑩ 炮烙地蔵

(市指定文化財)



- ・宝永<sup>ほう えい</sup>7年(1710)銘の石仏
- ・関所破りで火あぶりにされた罪人の供養のために建てられたとの伝説がある
- ・「炮烙」は素焼きの土鍋であるが、火あぶりの刑の意味もあり、それになぞらえて「焙烙<sup>ほう ろく</sup>」が奉納されている
- ・エボ地蔵ともいわれ、あげた線香の灰をエボにつけると治る、という言い伝えがある

# ①① 浄信寺

じょう しん じ



- ・宗派は浄土宗
- ・梅澤太郎右衛門が中興した寺院  
うめざわ たろう えもん
- ・市指定文化財の「梅澤太郎右衛門の墓」がある

うめ ざわ た ろう え も ん

## ①①-1 梅澤太郎右衛門の墓 (市指定文化財)



- ・北条氏の客臣であった塚原<sup>つかはら</sup>氏が、小田原城落城後に相模国梅沢<sup>さがみのくに うめざわむら</sup>村に住み、姓を梅澤に改めたといわれている
- ・太郎右衛門が慶長年間(1596～1615)に栗橋に移住し代々栗橋宿の名主を務めた
- ・元和8年(1622)4月、徳川2代将軍秀忠の日光社参の際、暴風雨による利根川の満水で船橋が危うくなった。太郎右衛門は人夫を率いて水中に入って命がけでこの橋を守り、災難を救った

じん こう じ  
⑫ 深廣寺



- ・宗派は浄土宗
- ・元和元年(1615)に並木五郎平なみ き ごろ べいが開山した寺院
- ・以下3つの市指定文化財がある
  - 1. 「六角名号塔」  
ろっ かく みょう ごう とう
  - 2. 「木造单信上人もく ぞう たん しん しょう にん い ぞう椅像」
  - 3. 「並木五郎平の墓」

なみ き ごろ べい

## ⑫-1 並木五郎平の墓 (市指定文化財)



- ・栗橋宿の開拓者のひとり
- ・栗橋宿の上町に住んで屋号を萬屋よろずやといい、後に小右衛門に移り油屋あぶらやというようになった
- ・宿名主を務めた五郎平の子孫は、あるとき大洪水による飢餓から人々を救おうとして、御用米(お上に上納する米)を村民に分け与えたため、「所払いところばら」に処され小右衛門に移住したといわれている

## ⑫-2 六角名号塔

ろっ かく みよう ごう とう

(市指定文化財)



- ・第2代住職の単信上人によって承応3年(1654)から明暦2年(1656)にかけて建てられた千人供養塔
- ・高さ約360センチメートル、6面に「南無阿弥陀仏」が書かれている
- ・単信上人によって20基、9代法信上人によって21基目が建てられたが、この塔のみ三千人供養塔

もく ぞう たん しん しょうにん い ぞう

## ⑫-3 木造単信上人椅像(市指定文化財)



- ・江戸時代の作、単信上人の自作とされる
- ・六角名号塔の建立の途中に失明したとされることから、本像に眼病の平癒を祈願する者が後を絶たなかったという
- ・本像は、毎年12月2日「単信様」の祭礼時に御開帳される（単信にゆうじゃく入寂：明暦3年（1657）12月3日。かつては12月3日に行われていたようである）

にっ こう お まわり みち

## ⑬ 日光御廻道

---

・日光道中は権現堂川沿いであり、水害によって通行が妨げられることがあった。それを防ぐために設定された、日光社参の際の迂回路

# ①4 なか いち じ ぞう ぞん 仲一地藏尊



・子育て地藏として信仰の厚い地藏。  
かん えん  
寛延3年(1750)に洪水で流れ着  
いたと伝えられる